

第38回法政大学大学院まちづくり都市政策セミナー プログラム

2013 年度全体テーマ 「まちづくりの最前線 2 ～コミュニティ・ガバナンス～」

日程: 2013年10月26日(土)

会場: 法政大学市ヶ谷キャンパス

要事前申込・入場無料

今年度のまちづくり都市政策セミナーはコミュニティ、すなわち身近な地域社会に焦点を当てます。地域社会の課題がますます質量ともに増大する一方で、平成の大合併の結果「基礎自治体」の規模は途方もなく大きくなりました。これを背景に、今あらためて、課題解決の基礎エリアとして、あるいは地域運営主体として、コミュニティに政策的な関心が高まってきています。

本セミナーでは、コミュニティの持つ政策的意味と可能性を、まず東日本大震災の提起するものから照射し、各分科会で様々な観点から検討し、最後に「ソーシャル・インクルージョン」の問題をめぐって深めていきます。

会場: 外濠校舎4階 S405教室

■開場(9:45～)

■開会の挨拶(10:30～)

■基調講演(10:45～11:45)

「原発災害避難とコミュニティ～首都圏へのメッセージ」

開催趣旨

福島県の大葉郡8町村は、国や県の情報が断絶する中で、独自の判断と行動により、原発災害避難という住民の生命を守るミッションを遂行し、そこには地域コミュニティの制度化としての基礎自治体の原点の姿が垣間見られた。他方で、全国の基礎自治体の多くは広域化、拡散化し、政治的共同体としての存在性が問われている。そして自治体の存在性という根元な問いは、そこに重層的多元的なコミュニティのガバナンスがどのように関わるのかという問いも導き出すだろう。原発災害避難に関する知見から、これらのことを考えてみたい。

福島大学 行政政策学類教授 今井 照

コーディネーター 小島 聡(法政大学大学院公共政策研究科教授)

■昼食休憩、ポスターセッション(12:00～13:30)

「学生たちがフィールドへ 地域づくりの活動実践・研究報告」(院生の研究成果、学部のゼミ活動など)

会場: 外濠校舎4階パブリックスペース

開催趣旨

大学院生や学部生が、所属ゼミ単位であるいは実習授業(フィールドワーク)、ボランティアサークルなどを通じて、調査研究に基づいた政策提言を行ったり、地域づくりを支援したりしている。初回となる今回は、15グループがポスター参加している。昼休み時間に、各グループの代表学生が順番に地域づくりの実践報告について発表し、すべての発表終了後にそれぞれのポスター前で質疑応答や意見交換を行う。

コーディネーター 水野 雅男(法政大学大学院人間社会研究科教授)

※昼食は55・58年館地下1階第一食堂又はボアソナードタワー地下1階フォレストガーデンのご利用が可能です。

■分科会(13:30～15:30)

①「地域の困りごとを『しごと』にどうつなげるか～多摩川の上流の山村と下流の都市郊外を結んで～」

会場: 55・58年館5階856教室

開催趣旨

高度経済成長を経て、農山村では、人口減少と高齢化が同時に進み、地域を支える担い手確保が課題である。他方で、都市郊外は豊富な人口を抱えながらも、リタイア世代が地元へ還流し、現役世代は働き方が多様化する中で、暮らしの不安は世代間で異なる。本分科会では、多摩川の上流と下流である山梨県小菅村と東京都多

摩地域を結び、NPO 組織や社会的起業という場から新たな「しごと」を起こし、地域の困りごとの解決を試みる若手実践者をお迎えし、課題を乗り越える知恵を学ぶ。

望月 徹男(NPO法人多摩源流こすげ 事務局長)

北池 智一郎(株式会社タウンキッチン 代表取締役)

コメンテーター 坂本 誠(全国町村会 調査室長)

コーディネーター 関司 直也(法政大学大学院人間社会研究科准教授)

②「コミュニティと公共サービス～互助・共助・公助の現状と展望～」

会場:55・58年館5階855教室

開催趣旨

コミュニティは公共サービスを提供しているのでしょうか？ここでのコミュニティとは、地域の地縁組織(自治会・町内会等)やテーマ型コミュニティといわれる市民活動団体を指している。問題は公共サービスをどのように捉えるかであるが、ここでは公共的な提供が望ましいサービスと定義しておく、コミュニティは公共サービスの提供主体であるといえる。こうした前提に立って、公共サービスの意味、提供方法、コスト、課題等を議論し、公共サービス供給主体としてのコミュニティの将来を考えたい。

加藤 直子(三鷹市生活環境部 コミュニティ文化課)

小田 賢治(佐倉市市民部 自治人権推進課)

谷本 有美子(神奈川地方自治研究センター 研究員)

コーディネーター 武藤 博己(法政大学大学院公共政策研究科教授)

③「政策論から見た『市民社会』の思想史」 (ポアソナード 記念現代法研究所共催)

会場:55・58年館5階858教室

開催趣旨

「市民社会」という概念は、1990年代以降全世界的に流行し始めた。しかも、一部の学者の世界だけではなく、実践の世界においてもである。日本でも、「協働」と「新しい公共」という言葉と組み合わせ、独特の政策傾向を説明する言葉として使用されている。この「市民社会」論の流行を、この概念のアリストテレス以来の思想史の現代的局面と見る観点から、理論的に解明するのがこの分科会の狙いである。

細井 保(法政大学大学院政治学研究科教授) 辻 英史(法政大学人間環境学部准教授)

山本 卓(法政大学法学部教授) コメンテーター 大中 一彌(法政大学国際文化学部教授)

コーディネーター 名和田 是彦(法政大学大学院公共政策研究科教授)

■パネルディスカッション(15:45～18:15)

「コミュニティ・インクルージョン～開かれた地域社会をめざして～」

会場:外濠校舎4階S405教室

開催趣旨

今年度のセミナーを総括するセッションとして「コミュニティ」の必要性と課題を議論するセッションとしたい。財政危機の中で行政の役割の縮小・重点化が進み、替わってコミュニティやNPOなどの「新しい公共」に期待が集まっているが、そこに危うさはないのか。午後の3つの分科会の成果を持ち寄りつつ、身近な地域社会が、真にすべての人を受容して、安心できる生活の場であるための理念と構想と具体的論点を探る。

鍵屋 一(板橋区議会事務局長/前福祉部長/元地域振興課長)

裴安(インクルージョンネットよこはま代表理事)

山田 美智子(横浜市西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート施設長)

コーディネーター 名和田 是彦(法政大学大学院公共政策研究科教授)

■閉会の挨拶(18:15～)

■閉会(18:30)

■懇親会(19:00～20:30 参加任意)

会場:富士見坂校舎地下1階 富士見坂食堂

会費:1,000円